令和7年度法人事業計画

1. はじめに

秋田市は9年連続出生数減少、この5年間比較でも1911人から1451人と460人(24%)減少しています。その一方、1,2歳児の保育施設入所総児童数はそれぞれ1300人を超えており、定員割れの保育園が増えています。

委託費収入や職員処遇改善加算収入が減収となるため予算規模の縮小や職員配置数にも影響が出ます。

様々な子育て支援が実施されていますが子育て、子育てと仕事の両立はまだまだ厳しいものがあります。7年度から母親が働いていなくても保育園利用ができる「こども誰でも通園制度」が始まりますが、子どもの安心感を広げる保育士配置の視点が欠落しています。

超少子社会となっていますが、小中高のいじめ、暴力、引きこもり等は増え続けています。

子ども問題は、社会の鏡であり、多くの課題を投げかけています。

改めて、その子らしさを豊かに広げる保育環境、条件そして保育が課題です。

2. 基本活動方針

(1)法人活動

- 法人役員(理事、監事、評議員選任解任委員)の改選を進める
- 法人事務局体制の検討を進める
- こばと共同保育所誕生から認可保育園づくり、認可初期のあゆみをまとめる

(2)保育園経営

- 7年度の出生数や国の保育行政動向の推移を見守りつつ、今後の保育園の役割や機能を深めなおす
積み重ねてきた保育の良さを土台に方向性を深め、その上で、保育園定員や職員構成、配置等の経営、運営課題を整理する
- 保育の質を高めるため職員が働き続け、やりがいのある労働環境づくりと処遇、給与改善を進める。
- 子どもの安心、安全、危機管理対応として中期的な修繕や固定資産取得等を計画する
- 予算編成や経理事務等を集団的に進めていく体制づくりを進める

令和7年度 こばと保育園事業計画

1. 子どもの受け入れと職員体制

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	17	17	19	19	19	19	110
R7・4月	4	18	21	22	22	22	109
R8・3月	12	18	21	22	22	22	117

*R7年度： 0歳児 6名 1歳児 2名 2歳児 1名募集継続 少子化の影響

*受け入れ枠の調整を柔軟に検討する

	保育士総数	常勤保育士	パート保育士
R6.4月	23	17	6
R7.3月	24	16	8
R7.4月	23	16	7

<職員動向>

R6年度動向	調理員1名	4/1 採用（調理パート）
	保育士1名	7/1 採用（パート保育士）
	保育士1名	8/1 採用（パート保育士）
	保育士1名	10/31 退職（保育士）
	保育士1名	3/31 退職（保育士）
	保育士1名	3/31 退職（保育士）
	保育士1名	3/31 退職（パート保育士）

R7年度動向	保育士1名	4月採用（保育士）新卒
	保育士1名	【みつば→こばと】
	看護師1名	募集中（パート）

2. 運営方針

（1）チームでの対応を再確認

- ・全職員で役割や係活動を分担し、企画運営に携わる（園内研修企画委員等）業務継続
- ・リーダー育成研修の位置づけ
- ・プリセプターとフォロワー制度の継続
- ・行動目標や互いを尊重し合える関係づくりの構築
- ・保育を語り合い、職員みんなで保育・子育てを支える職場づくり
- ・職員の育成と職員研修の充実（研修計画を作成）
- ・職員の健康管理とメンタルヘルス対策に関する取り組みを開始

(2) 子どもの笑顔、笑い声の広がる保育を進める

- ・ 保育者自身が楽しんであそび、子ども達の遊びを広げる
- ・ お散歩、園庭での砂遊びなど、自然に触れる戸外遊びの継続
- ・ 保育と給食が協力連携を強め、楽しく意欲的に食べる食事、食育を進める
- ・ 「かまどでご飯」は役割分担で実施
- ・ 全身を使った遊び（リズム・泥んこ遊び）表現活動へとつなげていく

(3) 健康保険・安全危機管理能力とその対応力を高める

- ・ 気になる子どもの発達を見つめ、個別に専門機関や小学校と連携していく
(年2回の健康診断時に子どもの発達・養育環境について学んでいく)
- ・ 除去食の誤食や与薬の間違いないように、日々複数の目と耳で確認していく

(4) 保護者との「共育て」を進める

- ・ 連絡ノート、クラスだより、懇談会、保育参観などを実施し保護者との「共に育ちあう」関係づくりを進める
- ・ 療育センターなどの受診時、クラス担任も同行し具体的な指導方法を保護者と一緒に学ぶ
- ・ 子育て支援として地域の親子に保育園を開放する「ほいくのつどい」と一時保育を継続する
- ・ 「子育て相談日」を第3水曜日に予約制として継続

(5) 環境

- ・ REDへのきりかえを計画的に実施

(6) 自然災害に対応するためのチームワーク

- ・ 月1回の避難訓練の実施に伴い、現実的に何をどうするかを話し合う事を定着させる
- ・ 熊情報にどう対応していくかを検討
(R5年度は戸外活動の自粛)

令和7年度みつば保育園事業計画書

1. 子どもの受け入れと職員体制

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	7	14		19			40
R7年4月	2	3	5	7	6	6	29
R8年3月	5	4	6	7	5	6	33

*R7年度：0歳児2名 1歳児3名 2歳児1名 4歳児2名、5歳児1名 募集継続

	保育士総数	常勤保育士	パート（常勤換算）
R6年4月	13	9	4 (2.62)
R7年3月	14	9	5 (3.25)
R7年4月	13	8	5 (3.25)

<職員動向>

R6年度動向	保育士1名	【みつば⇒こばと】異動
	保育士1名	【こばと⇒みつば】異動
	学生アルバイト1名	11/2 退職
	学生アルバイト1名	11/2 採用

R7年度動向	保育士1名	【みつば⇒こばと】異動
--------	-------	-------------

2. 運営方針

(1) 子どもと保育者の笑顔、笑い声の広がる保育を進める。

- ① 保育者と子ども、子ども同士のふれあい遊びの中で、安心感と共感関係を広げる。
- ② 子どもの興味・関心・発想を生かし、体験を通して好奇心、探求心、対話力を育む。
- ③ 障がい児を含む全ての子どもたちが共に育ち合う多様な関係性を豊かにし、難しいことへの挑戦する楽しさと自信を育む。
- ④ 保育と給食が連携して生きる力の基礎を広げる食育を進める。

(2) 健康保健、安全危機管理能力とその対応力を高める。

感染症対応、危機管理対応等について2園で共有しながら進めていく。

- ① 全職員が病気、感染症、食物アレルギー等に的確な対応ができるように、絶えず小児保健・医学の最新動向を学び、必要に応じマニュアルを更新し、情報を共有する。
- ② かみつき、取り合い、ケガ、事故への見守り、対応能力の向上を図る。
- ③ 避難訓練、大規模災害、防犯、防災、事故など危機管理対応を強化する。

(3) 保護者との「共育て」「共育ち」を進める。

- ① 保護者の不安を受け止め、安心できる関係を心掛ける。
- ② 子どもの育ち合う姿を丁寧に伝え合う。
- ③ 「共育て」「共育ち」の伝統を受け継ぎ、共に考え合う姿勢を大切にする。
- ④ 地域の子育て支援への参加・連携。
 - ・保育園開放（みつばのひろば）と子育て相談日を設け、地域の子育てに寄り添う。
 - ・「子育て相談日」を第3水曜日とし、地域の子育て相談に応じる。
 - ・中央地域子育てネットワークへ参加し、地域と連携していく。
 - ・保育実習生、高校生等のボランティアの受け入れを大事にし、保育者への希望を膨らませる機会、人と人が共に関わり合う機会とする。

(4) 保育を語り合い、職員みんなで保育・子育てを支える職場づくり。

- ① 働きがいのある職場づくり、保育を語り合う職場づくり。
- ② 職員育成と職員研修の充実。
 - ・全職員で役割や係活動を分担し、企画運営に携わる（園内研修企画委員等）業務継続。
 - ・いろいろな家庭をサポートする力を高める。
 - ・リーダー育成研修の位置づけ。
 - ・プリセプターとフォロワー制度の継続。
- ③ 職員健康管理、メンタルヘルス、親睦の取り組みを進める。
 - ・職員のメンタルヘルス対策に関する取り組みを開始。

(5) 保育園の環境整備を計画的に進める。

- ・遊びを満喫できる園庭の整備、子どもと一緒に畑づくりを進める。

(6) 保育園の歩みと今後への取り組み。

- ① 保育園が開園し15周年を迎え、これまでみつば保育園に携わってくれた方や卒園児、今在籍する園児や保護者の方職員に向けて記念誌を発行する計画を進める。
- ② これまでのみつばの保育を振り返り、さらにこれからも保護者とともに歩み、地域に根差した園でありたいという気持ちを込めた子育てパンフ等の発行。地域の方にも配布するなど、いずれは保育園が地域の安心の拠点となるような取り組みも検討する。
- ③ 少子化により園児数も減少し定員割れ等の兆しが見えてきている中で、今後は国の事業の動向を把握しながら受入れの幅を広げていきたい。